

# 18

## 若年層の被服素材に対する 認知度について

### About the recognition for the clothing material of the young group

ファッション造形学科・助手  
Department of Fashion Design・Research Associate

鷺津 かの子 Kanoko WASHIZU

ファッション造形学科・助手  
Department of Fashion Design・Research Associate

方 曉璋 Hsiao WEI FANG

現代総合学科・教授  
Department of Humanities and Contemporary Career Studies・Professor

安田 恵子 Keiko YASUDA

ファッション造形学科・教授  
Department of Fashion Design・Professor

安藤 文子 Fumiko ANDO

## 1 目的

消費者に満足感を与えることができるアパレル製品は、「形」「シルエット」「色柄」「素材」「価格」等の要素が効果的な組み合わせによって表現されるものである。思い描いたシルエットを実現するためには素材の選択が大変重要であり、時代を彩ったデザイナーたちが、素材の特徴をいかした作品を多く生みだしてきた。しかし、間違った素材を使用したコピー商品によって本来の美しさが正しく伝わらない場合も多い。

また、近年は科学の進歩により新しい繊維、新しい素材が絶えず生み出されており、素材や加工で表現力を高めた商品が多く見られる。学生が応募するコンテストにおいても、素材の段階から工夫を凝らした作品が高く評価されており、市場に出回っている素材をそのまま利用するだけでなく、そこに新たな価値を加えることでより効果的な表現を実現している。

今回調査を行った服飾デザイン系学生の多くは、デザイナーやパタンナー、ファッションビジネス系の職種へ就職を希望しているが、服をデザイン、製造する立場であっても、販売する立場であっても、被服素材に関する正しい知識を身に付けることは大変重要であり、次々と市場に登場する新素材も使いこなしていくためには、被服素材に関する基礎知識の習得が必要となる。中でも今回取りあげる被服素材の名称と分類は、授業では学んでも関連して覚えることが少ないため、名称の記憶はありながら、それがどのような布地であるのかを知らないのが現状である。しかし、アパレルの現場においては、布地が目の前にない状態でも現物をイメージすることは必ず必要となってくるため、欠かすことのできない知識であるといえる。

そこで、これからのアパレル業界を担う服飾デザイン系学生を対象に、被服素材の名称や分類をどの程度正しく修得しているかについて調査し、今後の効率的な教育に役立てることを目的とした。

## 2 方法

服飾デザイン系学生の被服素材に関する認知度を調査するために、アンケート調査を行った。

アンケートはまず、被服製作のための布地購入に関することから、表1に示す3項目をたずねた。①と②については当てるものを1つ選択させた。③では、以下の手順で作成したテキスタイルチャートに使用した24種類の名称のみを示し、適するものすべてを選択させている。

次に、実際の布地を見て名称を回答させるために、テキスタイルチャートを作成した。使用した布地は、織物としてローン、別珍、スエード調織物、サージ、フラノ、ギャバジン、ツイード、

ジョーゼット、オーガンジー、サテン、シャンタン、シフォン、デニム、帆布、ギンガム、ブロード、チノ、タフタ、シーチング、コーデュロイの20種、編物として天竺、ニットペロア、スムース、フリースの4種である。これら24種類の布地を4.5cm×4.5cmに裁断し、A4サイズの厚紙に貼付し、番号のみを記した。作成したテキスタイルチャートの写真を図1に示した。

作成したテキスタイルチャート提示前に、24種類の布地の名称のみを提示し、「名前を聞いたことがあるか」「布地を見れば名称が分かるか」について、「はい」「いいえ」のどちらかを選択させた。その後、作成したテキスタイルチャートを提示し、布地の名称がランダムに配置された表に該当する番号を記入させるとともに、織物、編物のどちらであるかを選択させた。

アンケート結果を集計し、被服素材の名称や分類がどの程度正しく修得されているか調べた。

被験者は、服飾デザイン系4年制大学学生1、2年生75名および服飾デザイン系短期大学学生1、2年生44名、実施時期は2012年2月である。



図1: テキスタイルチャートとその配置例

表1: 被服制作のための布地購入に関する質問事項

	質問項目	選択肢
①	被服制作の際、素材の選択に当たって重視する項目は何か。	色
		柄
		価格
		縫製のしやすさ
		耐久性
②	素材を選ぶ際、繊維の名称を確認しているか。	仕立て映え
		必ず確認する
		ほぼ確認する
		少しは確認する
③	「ブラウス」「春・秋用ジャケット」「パンツ」「舞台衣装・ウェディング関連品」のアイテム別に、制作時にどのような素材を選択するか。	全く見ない
		テキスタイルチャートに使用した24種類から選択

### 3 結果

服飾デザイン系の学生が被服を制作する際の、素材選択にかかわることがらについて調査した結果を図2~4に示した。なお、4年制大学学生を四大1年生、四大2年生、短期大学学生を短大1年生、短大2年生と表記している。

まず、①の素材選択時に重視する項目については、図2に示したようにすべての学年で「色」と回答した割合が最も高く、四大1年生で26%、四大2年生で33%、短大1年生で30%、短大2年生で32%であった。また、四大1年生では色に次いで柄が23%、価格が21%となり、短大1年生でも柄が27%、価格が23%と高い値を示した。これに対して四大2年生では仕立て映えが23%、短大2年生でも仕立て映えが27%と色に次いで高い値を示したことから、2年生は1年生に比べて被服制作の経験が多く、布地の段階での色や柄などの見た目の印象だけでなく、制作するアイテムによってどのような素材が適しているかを考慮していることが分かった。

次に、②の素材を選ぶ際に繊維の名称を確認しているかについての結果を図3に示した。

四大1年生、四大2年生では、約半数の学生が必ず確認すると回答しており、ほぼ確認するも加えると四大1年生が75%、四大2年生で89%となった。

短大1年生、短大2年生では、「必ず確認する」との回答は2割程度にとどまり、「ほぼ確認する」を加えても、短大1年生で38%、短大2年生で48%となったため、色や柄などの見た目だけで素材を選択しているケースが少なくないことが分かった。

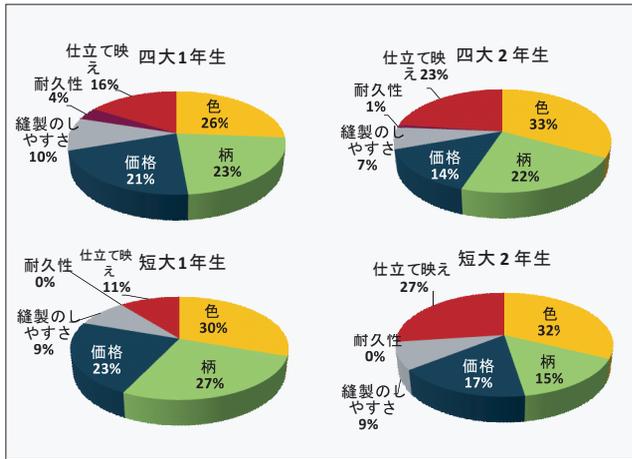


図2: 素材選択時に重視する項目

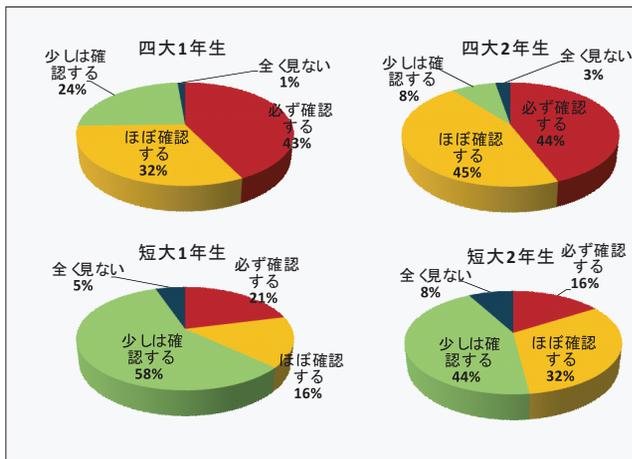


図3: 素材選択時の繊維名称確認状況

表2: アイテム別適合素材回答結果

	四大1年生		四大2年生		短大1年生		短大2年生	
	布地の名称	選択頻度	布地の名称	選択頻度	布地の名称	選択頻度	布地の名称	選択頻度
ブラウス	ギンガム	17	ブロード	24	シフォン	17	シフォン	24
	シフォン	15	シフォン	17	ギンガム	2	ギンガム	3
	ローン	14	ローン	13	サテン	1	ブロード	2
春・秋ジャケット	ツイード	15	ツイード	25	ツイード	9	ツイード	15
	デニム	13	デニム	13	ペロア	5	スエード	6
	ペロア	12	フラノ	9	デニム	5	ペロア	5
パンツ	チノ	24	チノ	36	デニム	15	デニム	18
	デニム	22	デニム	32	チノ	7	チノ	15
	ペロア	20	ペロア	7	コーデュロイ	2	ペロア	1
舞台衣装・ウエディング関連品	サテン	39	サテン	49	サテン	13	サテン	21
	オーガンジー	25	オーガンジー	42	オーガンジー	8	オーガンジー	13
	ジョーゼット	22	シフォン	28	シフォン	7	シャンタン	7

③の製作するアイテムの違いによる素材選択に対する回答について、結果を表2に示した。この設問では複数回答可としたため、選択頻度の高いものから3種類ずつを挙げている。

「ブラウス」で選択頻度の高かったのは、ギンガム、シフォン、ブロードなどであり、短大1年生、短大2年生では特にシフォンに選択が集中した。四大1年生、四大2年生ではローンも多く選択された。

「春・秋ジャケット」では、すべての学年でツイードの選択頻度が高く、次いでデニム、ペロアの順であった。また、「パンツ」ではデニムやチノ、ペロアに解答が集中し、他の布地はほとんど選ばれなかった。「舞台衣装・ウエディング関連品」ではサテン、オーガンジーの選択頻度が高かった。

テキスタイルチャート提示前に、24種類の布地について「名前を聞いたことがあるか」「布地を見れば名称が分かるか」を回答させた結果を図4～7に示した。図中の数値は「はい」と回答した割合を表している。

まず、「名前を聞いたことがあるか」については、ツイード、サテン、シフォン、デニム、ギンガム、シーチングは、全学年で90%以上の学生が名前を聞いたことがあると回答した。これらの布地は、「布地を見れば名称が分かる」と回答した割合もわずかに減少した程度で高く、どんな布地であるのかイメージできていた。

これに対して名前を聞いたことがある学生が少なかったのは、ローン、サージ、フラノ、スムーズなどで、ローンでは四大2年生は79%とそれほど低くないものの、それ以外の学年では40%以下の低い値を示した。サージ、フラノ、スムーズについても、ローン同様に四大2年生以外では名前を聞いたことがある被験者が40%以下にとどまった。これらの布地は、「布地を見れば名称が分かる」と答えた割合はさらに低く、ローンが四大1年生5%短大1年生0%、短大2年生21%、サージが四大1年生5%、短大1年生5%、短大2年生4%、スムーズが四大1年生4%、短大1年生5%、短大2年生4%であった。

次に、「名前を聞いたことがある」の回答結果と、「布地を見れば名称が分かる」の回答結果を比較したところ、特に差が大きかった布地は、四大1年生でギャバジン、天竺、サージ、四大2年生で天竺、ローン、サージ、ギャバジン、短大1年生でギャバジン、ジョーゼット、スエード調織物、短大2年生でギャバジン、タフタ、天竺であった。これらはいずれも、名前を聞いたことがあっても名称と結びつけることができない布地であり、ギャバジンや天竺は特に多くの学生が理解していなかった。

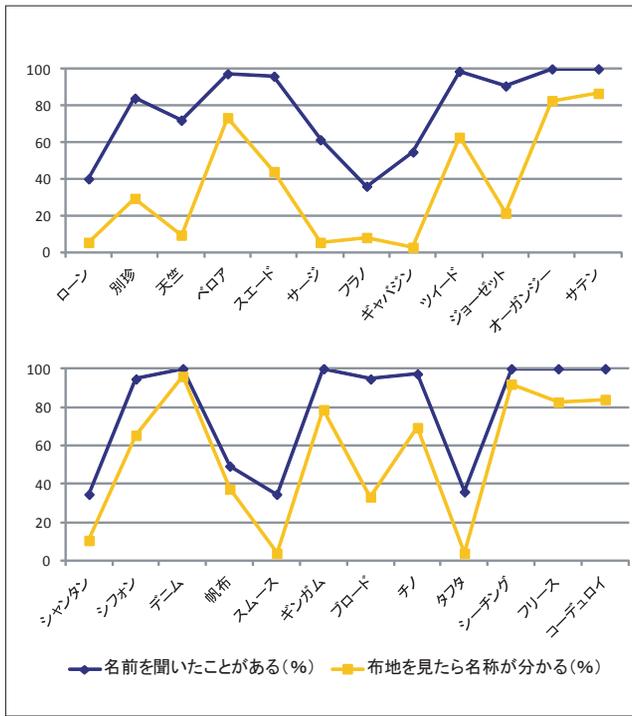


図4: 布地名称の認知度と判別予想(四大1年生)

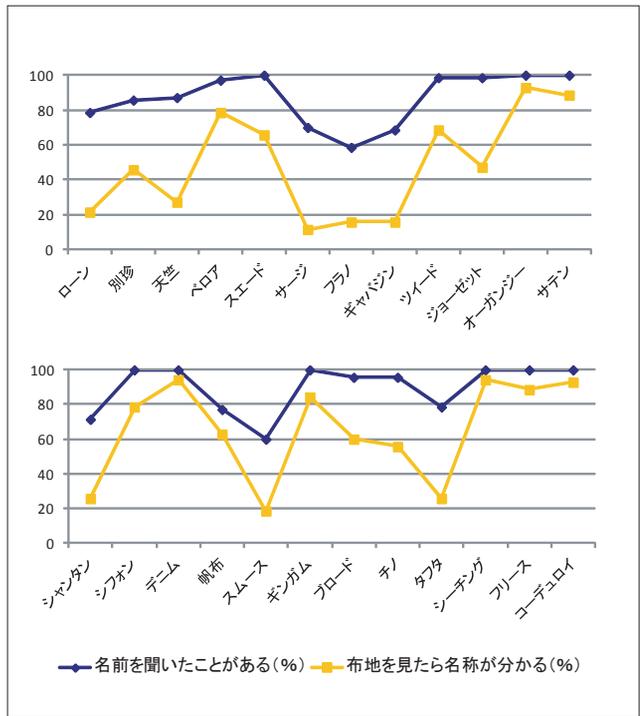


図5: 布地名称の認知度と判別予想(四大2年生)

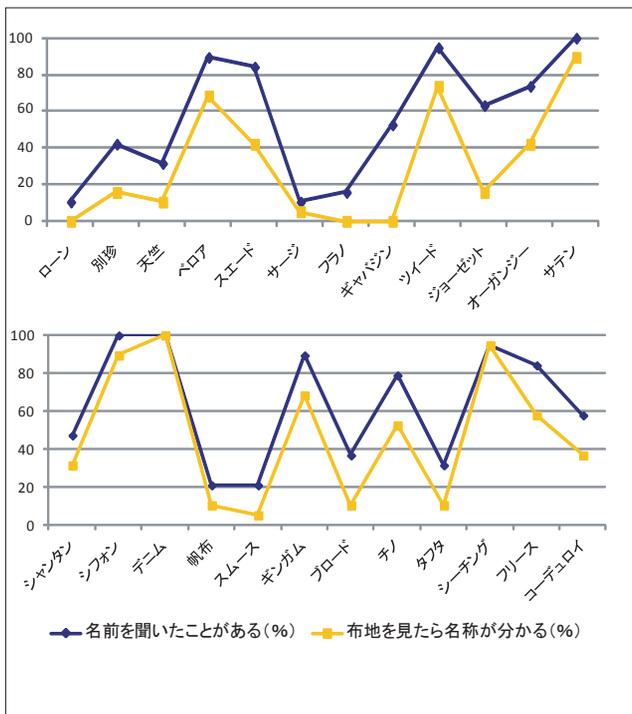


図6: 布地名称の認知度と判別予想(短大1年生)

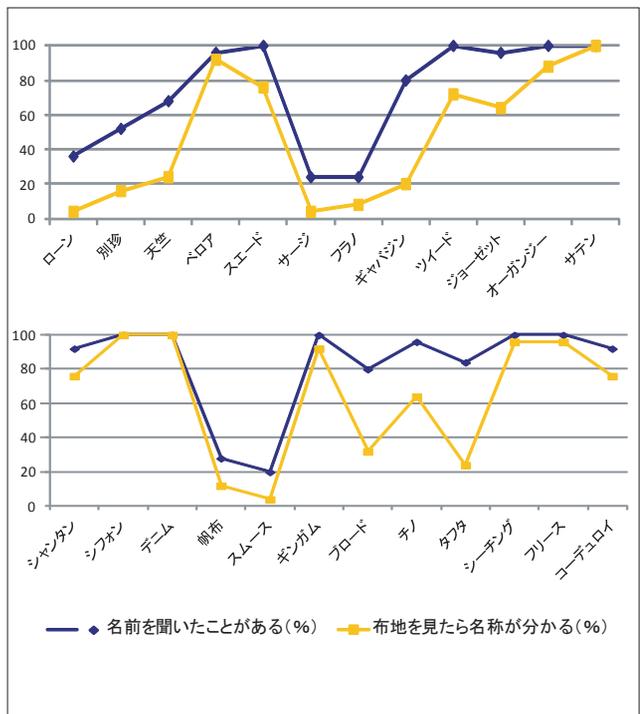


図7: 布地名称の認知度と判別予想(短大2年生)

次に、24種類の布地の組織が「織物」「編物」どちらであるか選択させた結果を集計し、学年別に正解率をグラフ化したものを図8に示した。なお、組織がどちらであるか判断できない場合を想定し、「分からない」を選択肢に設けたため、これを選択した被験者は除外して集計した。

まず、全ての学年で正解率が高かったのは、シーチング、デニム、サテンであり、四大、短大2年生で約90%、1年生も含めると60%以上の学生が正解していた。

これに対して正解率が低かったのは、ニットペロアが四大1年生8%、四大2年生20%、短大1年生5%、短大2年生16%、スムーズが四大1年生15%、四大2年生40%、短大1年生11%、短大2年生4%、スエード調織物が四大1年生5%、四大2年生13%、短大1年生21%、短大2年生16%、フリースが四大1年生19%、四大2年生30%、短大1年生21%、短大2年生28%となった。ニットペロア、スムーズ、フリースはいずれも編物であり、今回使用した編物のほとんどにおいて正解率が低く、特性を理解していないことが分かった。

さらに、テキスタイルチャートを提示して24種類の布地の名称を選択させた結果を集計し、学年別に正解率をグラフで示したのが図9である。

高い正解率が得られた布地は、デニム、ギンガム、シーチングシフオンの4種類で、全ての学年で70%以上の高い値が見られた。

これに対して正解率が低かったのは、ローン、天竺、サージ、ギャバジン、ジョーゼット、スムーズなどで、ローンが四大1年生0%、四大2年生36%、短大1年生0%、短大2年生4%と特に低かった。

正解率が低かった布地が、どんな布地と間違えられていたのか調べたところ、ローンはブロードやジョーゼット、天竺はスムーズやローン、ジョーゼットはタフタやローンと間違えるケースが多かった。また、サージは特にギャバジンと間違える被験者が多く見られた。

最後に、「布地を見れば名称が分かる」と答えた割合を判別予想とし、テキスタイルチャートの布地名称の正解率と比したグラフを図10に示した。

フラノ、帆布、スムーズでは、判別予想に比べて正解率が高い学年が多く、実際の布地を見れば名称と結びつけることができる被験者は増えているが、それでも正解率は低かった。また、ペロア、ジョーゼット、サテン、ブロード、チノでは、判別予想に比べて正解率が低い学年が多く、特に短大1年生のサテンや短大2年生のジョーゼットでは差が大きかった。これらの布地は、名称を聞くことは多いが、見分けることが難しいようである。

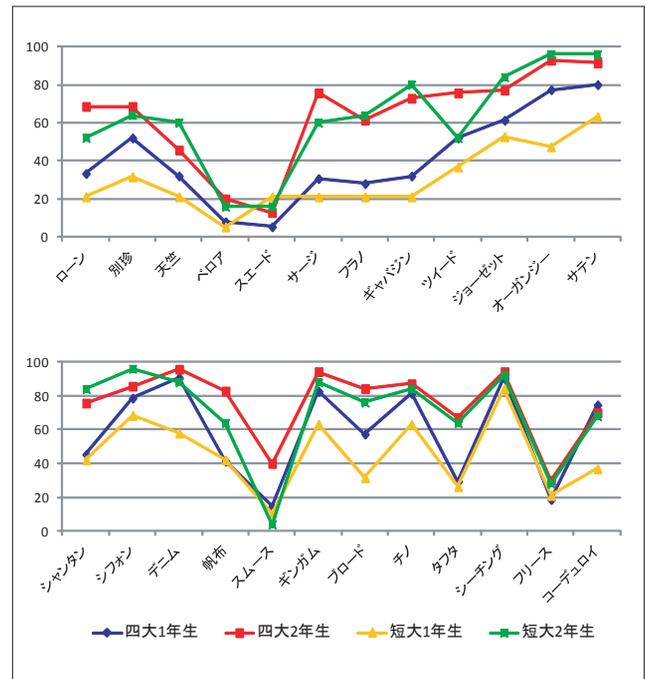


図8: 布地組織の正解率

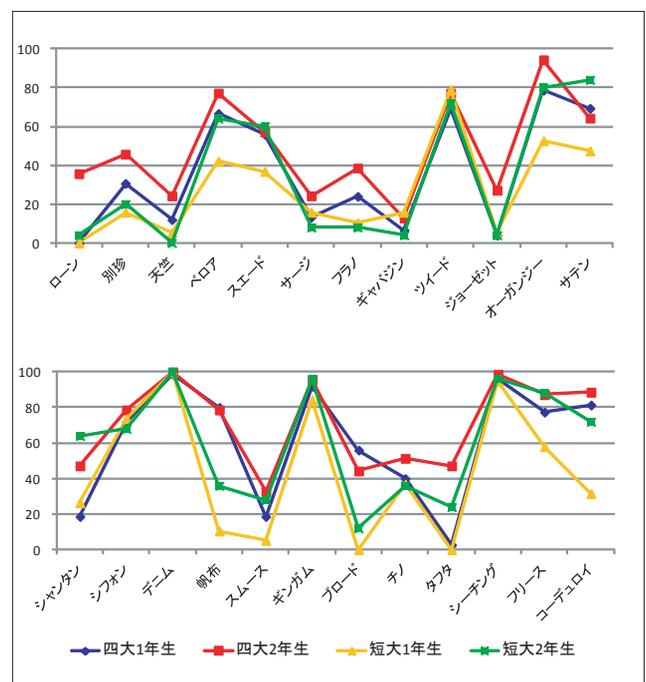


図9: 布地組織の正解率

